

事業概要

1. 「地域巡回リハ」事業内容

対象地域住民に共通する「健康不安（主に腰・膝などの運動器痛、以下ロコモ）」と「孤立感」への対応を主目的として、リハ専門医を含むリハチーム（PT, OT, 保健師、看護師、栄養士、ケアワーカー、ボランティア等）が地域集会所（A, B）2 地区に出向き、対象者に以下の活動を実施した。①リハ診療、②個別リハ訓練・治療、③集団脳トレーニング、④温熱（ホットパック、足湯）、⑤生活指導（リハスタッフによる自主訓練・ロコモ予防指導、栄養士による食事指導）、⑥活動量指導（活動量計を貸与し毎回活動量をチェック）、⑦和み（昼食会および伝統行事開催、集団脳トレの促進）。対象（A, B）2 地区では、以上の活動を前半 3 か月間（平成 24 年 9 月 6 日～11 月 22 日）は毎週、後半 3 か月間（12 月 6 日～平成 25 年 2 月 21 日）は隔週実施した。活動前後には非対象地区（コントロール群、C 地区）を含む全地区で訪問調査（後述）、A, B 地区ではさらに体力検査を実施した。

2. 調査内容

1) 記述的方法：毎回の巡回リハでの診療・訓練・指導・和み場面の記録はグループメール上に記録し、参加スタッフ同士で情報を共有できるように配慮した。

2) 訪問調査内容：訪問調査員により以下①～⑥を前後 2 回（1 次、2 次）調査した。

①QOL：「SF-8」、②日常生活の自立能力：「FIM 短縮版」、③認知能力：時計描画検査（CDT）、④栄養状態：簡易栄養状態調査票（MNA）、⑤心理状態：樹木検査（バウムテスト）、⑥S. C. 調査：一日の暮らしぶりの訪問聴取内容から、対人交流内容を「（血縁・地縁にかかわるプライベートな交流）」と「公的サービス介入に関わる社会的交流（老人クラブ、町内会、自治会など）」にわけ、各々月換算 1（殆どなし）～7（毎日）点の 7 段階で定量化し評価した。

3) 参加者の体力・活動量検査

A, B 地区ではリハスタッフにより、体力検査（握力、開眼片足立ち、Time up and go test, 歩行能力）を実施した（前述）。

3. 調査客体数：駒ヶ根市よりの呼びかけに応募した参加者は A 地区 19 名（男：女＝8：11、平均年齢：男 77.0、女 66.6 歳）、B 地区 17 名（男：女＝6：11、平均年齢：男 73.5、女 74.3 歳）C 地区（男：女＝14：6、平均年齢：男 80.5、女 77.3 歳）であった。特に募集要件を設けず各地区概ね 20 名以内で基本的に応募者全員参加とした。その結果 A 地区で当初 20 歳代女性（1 人）が参加した（途中中断）。なお、S. C. 形成を主目的とする立場から、全 18 回の事業中に 5 回以上欠席した者は調査対象から除外した。その結果、地域リハ実施地区では A 地区 12 名、B 地区 15 名が最終的に調査の対象となった。

4. 事業の一部委託

1 次調査・2 次調査の統計処理は、（株）サーベイリサーチセンターに委託した。